

ビハーラリポート

No.7
OCTOBER
1993

CONTENTS

セミナー 小助川次雄	ターミナルケアを考える	2
報告	新潟県長岡西病院ビハーラ病棟見学記	10
感謝	北海道南西沖地震被災地義援チャリティバザー	13
	「病院で死ぬということ」自主上映会を終えて	14
追悼	さようなら関悦子さん	16
INFORMATION		16

ビハーラ Vihara

休養の場所、気晴らしをすること、僧院または寺院

『漢訳対照梵和大事典』

- 一、病人に供給す
- 二、病のために医薬の具を求む
- 三、病者のために看病人を求む
- 四、病者のために法を説く
- 五、余の比丘のために法を説く
- 六、法を聞いて教化す
- 七、大徳のものに供養し、恭敬するために
- 八、聖衆に供給するために
- 九、深経を読誦するがために
- 十、他に教えて深経を読ましむ

『十住毘婆沙論』卷第十六

講演

ビハーラセミナー

ターミナルケアを考える

—— キリスト教の立場から ——

1993年7月22日 鷹巣阿仁広域交流センター

小助川次雄

秋田大学医学部非常勤講師・キリスト教牧師

ご紹介に預かりました小助川と申します。今回思いがけないを導きをいただきまして皆様と一緒に学びの時を与えられていますことを、本当に感謝しております。地方でこれ程きちんとした勉強会は珍しいと思います。私は今ご紹介いただきましたように、キリスト教会の牧師であります。また秋田大学でもいくつかの授業を担当しております。今日は理屈よりも実際に現場で体験してきたことを紹介させていただきながら、キリスト教の立場ではターミナルケア、あるいはホスピスをどう考えているのかということをお話したいと思います。

なぜターミナルケアか

まず第一番目に、なぜ私がターミナルケアに興味を持って、今この様な事をさせていただいているかということから始めたいと思います。今から41年

前、私は中学校の教師をしていました。年齢は19才。

ご存知のように昭和27年頃というのは、戦争の影響で学校の先生が足りませんので、講習会で単位を取ると助教諭の免許が出されたんです。私もその助教諭の免許で、由利郡の山村の中学校に赴任しました。私は小学校時代に素晴らしい先生に巡り合いまして、その先生の影響で大きくなったら学校の先生になりたい、そう決めました。

本当に憧れの教師になって赴任したんですけれども、実は赴任してまもなく、先生の世界にもいろいろとトラブルがあることが分かりました。それが私には大変ショックで、人生とは一体何だろうかというところまで悩むようになりました。

そうしているうちに、聖書を読みたいという不思議な衝動に駆られまして、熊の出るような山村から、歩いて1時間、バスで1時間、鈍行に揺られ

て1時間。待ち合わせの時間も入れると4時間半かけて秋田市に出かけましてやっと一冊見付けました。

また4時間半かけて下宿に戻って、聖書を読んでおりますと『**艱難**をも喜ぶ』という生き方のことが書かれていたんです。私にはその言葉がとても魅力あるように響きまして、その後その言葉からずっと聖書を読んでいくうちに、人生には何かがあるんだ、なければならない、そういう考え方になりました。

ところが、集団検診で引っ掛かりまして、「君はもう教師を続けることは出来ません」と言われたんですね。それは重症な肺結核だったんです。聖書を読んで、人生には何かがあるらしいと感じ始めたときに、「君、これは死ななきゃ治らんかも知らんぞ」と言われたんです。

そこで入院して、19才にして自分の死というものをまともに見詰めなければならない状況に置かれたわけです。

そのとき私が経験したのは、本当に人間というのは最後は孤独だということですね。病気も病気ですから、初めは学校の同僚も来てくれましたが段々足が遠のきました。最後は親兄弟だけになりました。とにかくお医者さんに、これは死ぬまで治らんと言われたわけですから、もう自分は死ぬということしか考えられなかったんですね。ですから誰の言うことも頭の中を素通りして、本当に人間というのは最後は孤独なんだなあと思わされたんです

ね。このように、自分の死を身近なものとして考えなければならないような状況に追い込まれた人の気持ちの一端を、経験させられたということがあるんです。

それから結論的にいいますと、「君、来れば死ななきゃ治らんぞ」と言われた病気が、1年3ヶ月で治ったんですね。で、学校に復職しました。もう一度教師を続けるにはきちんと勉強うした方がいいということで、大学のほうに進ませてもらいまして、そこで宣教師の方のバイブルクラスに入り、初めて教会と繋がりを持ちました。

ですから私は、最初は教会や宣教師の方に導かれたというのではなくて、聖書そのものを読んで自分で分かっていただいたんですね。そして、大学院も終わった、さてこれからどうしようかという時に、自分のそれまで経験させていただいた、死に直面させられた体験を生かすために、牧師になるための道を選びました。そして、牧師になったからには、どうしても生まれることとご臨終に立ち会うことになりますので、病院を訪問して、苦しんでいる人に少しでも励ましになることができたいと思っていただけです。

それが今のホスピスとかターミナルケアというふうに呼ばれる内容に繋がっていったわけですね。

全人的ケアの必要

さて次ぎに、ターミナルケアの根底

にある一つの医学的な立場からいわれている、短いですがとても大切な言葉があるんですね。「病気を見るには病気だけでなく、病人を見なければならぬ」。

今はいろいろ医療技術が進んでいますので、機械的に精密度の高い検査がされまして、診断も適確になされるようになってきているんですけども、それと平行して病人を見るということが機械的になされるために、人の気持ちとかその人自信を見ることがどんどん少なくなってきてしまった。そういうことが反省されて全人的にケアをしていく必要がある。まして回復の希望のない、いわゆるターミナルケアでは大事なわけですね。

そこでホスピスの登場ということになるんですけども、ホスピスが日本で初めて紹介されたのが昭和52年、今から15年か16年前なわけですね。ですから割合最近のことなんですね。英国の聖クリストファーズ・ホスピスというのが紹介されて国内で注目を引くようになったのです。このホスピスというのは、痛みのコントロールということに主眼を置いて、特に末期癌患者の痛み、身体的、精神的、社会的、宗教的という四つの痛みを和らげ、その人を側面から援助していくという考え方で組織や体制を作っていくようになりました。これが欧米のホスピスなわけですね。日本でもホスピスがはやってきました、やはりキリスト教系のホスピスが最初でした。その後、日本にもだい

ぶ増えてきまして、現在では20の施設があるそうです。ただしその中で政府から認証されているのは6ヶ所しかないそうです。

ホスピスの理念

さてホスピスの理念ですけれど、ホスピスの日本でのパイオニアといわれている柏木哲夫先生が朝日新聞社から出された『生と死を支える』という本の中にこのように書かれています。

「ホスピスというのは、末期の症状の中にある人が、その人らしい生を全うするのを援助することである。」「死を現実としてとらえ、それを認め合った上で、どこまでも人間として関わり合い、支え合うことができるかを追及する場でもある。」そういう言い方で説明されています。もう一つの理念は「キュア（治療）だけでなく、ケア（ケア）こそ大事である」。

これも最近使われるようになった言葉ですが、生命の質（クオリティ・オブ・ライフ＝QOL）ということがターミナルケアに置ける大きな概念になっているんです。たとえ末期癌であっても、最後までその人らしく生き抜く、中身のある充実した一日一日を得ることを援助する、そこにケアの目的があるんだということです。

今までは死についてお医者さんが口にするということは抵抗があったわけですね。今でもそういう人がいます。河野というお医者さんが『死に関する

一般医療の現状』ということのでつぎのように書いています。「ただ、身体的な治療がなされていて、精神的な面、宗教的な面への対応はなされていない」。その理由は多分、ということでは「次のような理由から抵抗を覚えている」。第一は死を口にすることというのは、自分の失敗、敗北と思うから。第二は、それはむしろ臨床外の人々の役割と考えているからだ。第三は死の問題に踏み込むゆとりがない。第四は取り組んでもどうすれば良いか分からない。問題解決の手段を持たない。

今までの医学教育では、死の教育というのはもちろん無いということですね。医者はこういう理由から死の問題を取り上げることは難しいのだということです。

さて、次ぎに死の臨床の実際ということですが、今「死の臨床」という言葉を使いますね。今までこういう言葉はありませんでした。けれども、医学の立場でも社会福祉の立場でも、こういう言葉を使って、死を忌み嫌うのではなくして死を違った観点から取り上げていかなければならない、ということによって生まれた言葉です。

末期患者の心理

末期患者の理解ということですが、死に行く患者には四つの大きいニーズがあります。

第一に身体的ニーズで苦痛に対する対応ですね。痛みを和らげる、取り除

く。これはキュア(cure治療)ですね、

第二に精神的ニーズ。孤独、恐れ、不安に対応する何かを必要としている。これも一部はキュアになります。例えば、精神安定剤を飲むということですね。しかし薬だけで精神的ニーズが満たされるわけではありません。そこにカウンセリングや対話が必要になってきます。そうなりますと、ケア(care看護)になってきます。

第三に社会的ニーズ。とくに家族への配慮ですね。病名告知、経済的な問題、会社のことを気にする、そういう面をいいます。

第四に宗教的ニーズ。日本ですと前の三つのニーズと対等に扱うことはなかなか出来なかったんですが、欧米ではこれは対等のニーズですね。魂の平安への援助、死後のこと、死への恐れに対する対処を話し合うことになるわけです。人間は宗教的存在であるということに心を留めて対応するということが大切です。

それから、臨死患者の心理ということですがけれども、実際に病院に見舞いにいって、患者さんの気持ちを無視して一方的に同情したり励ましたりすると、かえって逆効果になるということがあるんですね。とくに癌のターミナルの場合、励まされることが非常に重荷になるというんですね。

私の体験から臨死患者の心理を、過去、現在、未来に関する三重の葛藤ということでもとめてみました。

まず、過去のことがはっきりしないで悩んでいる、あの問題はまだ未解決だ、あの人に迷惑を掛けたとか、掛けたまんまだということにしている患者さんが少なくないんですね。

それから現在については、自分の死を受け入れることができずに、無力感や劣等感、反対の不満や抵抗やのろいの感情が起こってくるわけです。若い人や実年の人はこれが極端ですね。また、或る人の研究では、人間は死そのものはある程度覚悟する、それでは何が不安かということ、死に方や死に様だということですね。そう言われればなるほどなあと思うんですね。

それから、自己存在の肯定感を持ちたい、ということです。一生懸命に「私は駄目だ、役に立たなかった」とはいうんですが、他の人から「そうだね」といわれると落ち込んでしまうんですね。「そんなことはないです。ずいぶんいろんな事をなさいましたよね」というように、その人の歩んできた道を肯定的に評価してやるということが大事です。そして今だって生きている意味があるというふうに受け止めていくと安心して落ち着きます。

それから死後に関してですね。死んだらどうなるとか、未知の世界への不安と恐れがあるんですね。行く先についての信仰があると平安や安心が得られる。これを積極的受容といいます。また、自然に受容していく場合もあります。

ある少年とのこと

ここで、実は20才の方が癌だということが分かったときの気持ちを吐露しているテープがありますので聞いていただきたいと思います。

テープ「癌が身体中に転移して苦しいです。まだ20才です。神様はこの苦しさを背負ってくださいますか。僕は安らかに天国へ生けますか。もう何も分かりません。」(苦しそうな声)

テープ「小助川牧師さん、自分の家までもきてくれてどうもありがとうございました。いま日赤の三階に入院しています。もし宜しかったら神様のお話を聞かせにきてください、お願いします。小助川先生、本当にありがとうございました。」(明るい声)

この少年はあちこちのテレフォン=メッセージを調べて電話を掛けたんだそうです。たまたま私たちがやっているテレフォン=メッセージは相手の声も入るようになっているんです。

いま聞いてもらったのは、それに入っていた声です。たまたま少年のところへいったのが、僕一人であったということで感激してくれたんですね。バイクが好きで、先生元気になったらバイクが乗りたい、と言ったりですね。

ところが病気がどんどん悪くなって苦しくて、お医者さんや看護婦さんを困らせたんですね。苦しいし残念な

ものですからね。でも、感謝な事にその病院は是非牧師さんにきてほしいということで、お母さんが看病しておられたんですが、そこに一緒にいている話をする事ができました。

そのお話の内容ですが、今回はキリスト教の立場からというはっきりしたご依頼ですので、自分の経験させていただいたことを具体的にお話をさせていただきたいと思います。

まず時間を決めまして出来るだけ訪問しました。その度毎に、その時の彼の気持ちに合わせて会話を進めます。彼の場合には「天国へ行けるんでしょうか」とか、「神様は救ってくれるんでしょうか」とか、またすっかり逆になりまして「いったい神様は本当にいるんでしょうか」とか、「どうして僕だけがこんな運命なんんでしょうか」とかですね、本当に聞いているのが辛い、だからこそ助けが必要だったと思うんですね。

このケースは若い方の典型的なターミナルケアの例でした。で、その時にどういうお話をさせていただくかといいますと、まず人の命はいかに貴いかについてお話をさせていただきます。例えば、聖書には「人の魂は全世界を得てもそれに代えることができないほど貴い」と教えています。それから、命は神から与えられたものだということ。したがって、神が守ってくださるということ。この神というのは、天地万物の創造者という意味での神です。

それから、その人の生涯で、良くやったことというのが必ず有るんですね。その人がこれまで生きてきたことが、無駄ではなかったということをお話します。これが凄く安定した気持ち持たせるようです。

次に、キリスト教の説き方になるんですが、これまでの生涯のまずかった点というのも取り上げるわけです。もちろん無理やりにはではなく、患者さんとの会話の中でです。その中で、反省し悔い改める。その事によって過去の処理、清算ができるわけです。

ターミナルの患者さんは時間がありませんから、難しいことを言っても駄目ですし、その必要もありません。ただこの時にですね、イエス様が十字架の上で死なれたということがどういう意味であって、あなたとどういう関係があるか、ということをお話させていただきます。そこで、十字架のイエスを信じるものはすべての罪が許されるということをお話します。これを受け入れる方もいれば、まだ受け入れられない方もいますが、その方に合わせてお話をしていきます。そして、イエスを信じると永遠の命が与えられるということをお話します。人間は死ねばお終いではないということです。だれでもいずれば地上の命は終り、魂は神のみもと、すなわち天国に帰れるということです。

皆さんは和尚さんもいらっしゃいますし、医療の方もいらっしゃるんです

けれども、本当に生命の貴さということ私たちが叫ばなければ、ただ一般的にいわれるだけでは不十分だと思うんですね。

命は与えられたものである、かけがえのないものである、絶対的に貴いものである、ですから最後の最後まで、神から与えられた命を全うするという

のが人間らしい生き方ではないか、というふうに考えるんですね。生まれてきて、何となく死んでいくということは何と勿体ないことでしょうか。

そういうふうに考えながら、私たちは実際のターミナルケアをさせていただいています。ご静聴ありがとうございます。

質疑応答

小助川先生のお話の後、セミナー参加者からいただいた質疑応答をここに抄録しました。

臨終の場に立ち会って

Q 臨終の場に立ち会った経験を教えてください。

A 先程の青年の場合は、片方の手を握り締めながら、神様はどんなときにも一緒にいてくださいます、心配することは何もありませんよ、と繰り返し話しかけました。他の場合もかならず手を握ります。

私たちの場合は、臨終のときにその場にいないというのは駄目なんです。間に合わないときがありますので、その場合は仕方がないんですが、臨終の場においてお祈りをしているというのが使命なんです。

Q 臨終の場にいるのが使命ということですが、お忙しい場合、代わりに牧師さんを頼むとか、複数でケアに当たるということをしているんでしょうか。

A ケースバイケースですが、亡くなる前のお話の相手になっている段階では、例えば女性の患者さんの場合は女性の方にいってもらおうとかということでも複数の場合もあります。牧師の場合は牧師婦人というのがいまして、牧師を補佐するという使命を託されています。ただ、臨終に立ち会うのは牧師の使命ということになっています。旅行などで教会を空けるときには他の牧師さんに頼んでいきます。しかし、信者さんにとってはいつもの牧師さんに来てもらえないということは非常に寂しいそうですので、亡くなりそうな方がいるときには遠出をしないように心掛けるようにしています。

家族へのケアは

Q 患者さんの家族に対するケアということも大事だと思うんですが、その辺のお話をお聞きしたいと思います。

A 第一に、医師の先を行かないということ。お医者さんがやっていることや、やろうとしていることと違ったことを言わないということです。

第二に家族の先を行かないということ。家族とも良く話し合って要望することには答えてあげるようにしています。患者さんに会う場合でも家族の了解を取ってからにしています。注意することは、本などで得た知識を不用意に話すことをしてはいけないということです。

告知されていない場合は

Q 告知されている患者さんと、告知されていない患者さんとの対応の違いを教えてください。

A 告知されていない場合非常に中途半端な対応になるんですね。気をつけていることは、病気の話は一切しない、病気のことはお医者さんにお任せしましょうとあって、永遠の命の話などを心の状態に合わせながらします。また患者さんが寝ていても家族の方とも病気の話はしないということです。

服装のこと

Q 我々の中には僧衣で病院に行くということに対する抵抗があるのですが、牧師さんとの相違点についてお聞きしたいと思います。

A 私たちはこのかっこうで行きます。一応、信者さんかそうでないかということに関しては気を使いますが、信者さんの場合は牧師の指名を理解し

ていますから、病院に行っても直ぐに死と結び付けて考えることはしないでですね。僧衣に対する考え方は死に対する考え方に通じているんだと思います。死を忌み嫌うという考え方を変えていかないかぎりどうすることもできないのではないのでしょうか、

患者さんと出会うには

Q 病院に入院された患者さんと先生は、どの様にして出会うのでしょうか。

A 教会員であれば当然ですね。まったく教会に来たことがない人は、紹介されてくるんですね。後は伝え聞いて来る方です。PRは何もしていません。

学習よりも実践を

Q 学習活動を続けていくべきか、実践に向かうべきかということで、ビハーラの中でも葛藤があるのですが、先生のお考えをお聞かせください。

A 最低限の学習をしたら実践に移るべきでしょうね。カウンセリングの勉強をしておくといいのではないかと思います。

以上

報告

ビハーンラ先進地に学ぶ

長岡西病院ビハーンラ病棟を訪ねて

ビハーンラ会員有志

長岡西病院ビハーンラ病棟見学記

藤里町宝昌寺内 新川泰道

去る7月13・14日、新潟県の長岡西病院ビハーンラ病棟の見学旅行に行き参りました。ここは全国に先駆けて仏教ホスピスの理念を実現した病院であり、我々の活動の指針とすべく、この見学旅行はビハーンラの会設立時からの懸案でありました。また今回は、新潟生まれの良寛さんゆかりの地巡りも日程に組み込んだもので、参加者は僧侶、看護婦等合わせて16名でした。

前晩に北海道南西沖地震があり、その被害や列車の遅れ等の心配もありましたが、幸い我々の利用した特急白鳥号は予定通り長岡に到着、長岡西病院へと向かいました。建物の規模も立派で、設備も十分なものを備えているということでしたが、一階ロビーの上部にある教会風（モチーフは仏教的だが）のステンドグラスに一般の病院とは違った雰囲気を感じました。

この病院の六階がビハーンラ病棟となっており、この病院のビハーンラ僧と

して定期的に勤務しているお坊さんがいること、病棟内に仏堂と呼ばれる部屋があり、そこでは朝夕のお勤め、坐禅や涅槃会、花祭り、お彼岸等の法要も行っていること、それは決して強制的ではなく、患者さんの意思や体調による自由参加ということ、あくまで患者さんとその家族に安らぎを与えることが第一であり、ここビハーンラ病棟を利用しての特定の宗派の布教や押しつけは一切しない、などといったことが説明されました。

続いて病院のビハーンラ僧との質疑応答に移りましたが、我々の質問に対する十分な回答を得ることができなかったこと、病院の時間の都合で、ビハーンラ病棟の看護婦さん達の生の声が聞けなかったこと、患者さんとの面会、病室内の見学の場合はまた別の形での申し込みが必要となり、患者さんと病院関係者の触れ合う実状を把握できなかったのが残念でした。

そんな中で、病棟のロビーには患者さんの日々の思いを綴ったノートや、また季節がら七夕の笹飾りがあるのですが、ノートや短冊に書かれた患者さんの言葉には、死を目前に迎えた迷い、悩みは当然あるものの、それ以上に安らかな気持ちで今を送っているのが感じられる言葉が多々見受けられたことが印象に残りました。

その後、「ビハーラ」という呼称を提唱され、我が国における仏教理念を取り入れたターミナル・ケアに関する活動の第一人者である、田宮仁先生のお話を聞く機会にも恵まれ、我々は長岡西病院を後にしました。

施設やシステムは揃っても、まだまだ試行錯誤の部分が多く、この活動の奥深さ、難しさをこの見学や先生のお話を通して強く感じました。また、長岡市内や近辺には「ビハーラ病棟に入るようになったら、あの人もお終いだ」と認識されている事実もあるということで、病院関係者や宗教者側の努力はもちろん、より一層の患者さんの家族や社会全般の理解の必要性を感じました。

その後我々一行は弥彦温泉の旅館に向かい、旅の疲れを癒し、参加者全員満喫されている様子でした。夜は今回の見学についての感想、また今後の我々の活動にどう生かすかを述べ合い、場所を移してレーザー光線とミラーボールの下でマイクを握っての議論の方も盛会でした。この硬軟両面の切り替えの早さは、ビハーラの面々の特筆すべき点でもあります。

翌朝、宿を後にして良寛さんのゆか

りの地めぐりへと出発いたしました。あいにくの雨の中、最初の目的地国上山国上寺へ向かいました。ここの境内には良寛さんが住んでいた五合庵があるのですが、国上寺は真言宗のお寺で宗派の違う曹洞宗の僧である良寛さんに住居を貸し与えたというのは普通有り得ないことですが、その人格、宗教性の素晴らしさが宗派の枠を越えて国上寺側にも認められたのでしょうか。国上寺の良寛さんの木像の柔和なお顔からもそれが伺い知れる思いでした。雨の中の参道を歩き、五合庵までたどり着くとその質素な佇まいの中で過ごした良寛さんの当時の様子に思いをはせることができました。

次に分水町の歴史民族資料館を訪れ、書家としても有名な良寛さんの数多くの作品を拝見しました。素朴で飾り気のない、それでいて何か芯の強さを感じる字体にそのお人柄が偲ばれました。和島村には良寛さんが生涯を閉じた木村家が、また近くの隆泉寺には良寛さんの墓があり、我々はその徳を慕って墓前で読経し、献香して参りました。一時ではありましたが、観光気分も薄れて厳粛な思いがいたしました。

最後に訪れた出雲崎の良寛記念館は海沿いのとても景色の素晴らしい所にあり、ここでも良寛さんの素晴らしい書を拝見することができ、良寛さんの足跡めぐりの予定を終えました。地位や名誉、財産、権力から離れ、山中に静かに暮らし、生きとし生けるものに限りない愛情を注いだ良寛さんの足跡を訪ね、改めて自分の一僧侶とし

での生き方を考える機会を与えていただいたことに感謝いたします。

続いて寺泊のアメヤ横丁で昼食をとり、各自おみやげに新鮮な魚介類を買って帰途に着きました。列車は雨の影響で多少遅れたものの、無事旅行の日程は終了しました。

前述したように、ビハラー病棟の見学を通して改めてこの活動の難しさを痛感し、また我々の見聞を広め、会員

の親睦を深めるという意味では十分意義のある旅行でした。この一回限りで終りにせず、今後も情報交換、また我々の指針を探る意味でも再度の長岡西病院のビハラー病棟見学の必要を感じました。

最後になりましたが、今回の旅行でご難儀をおかけしました幹事さんに改めて感謝と慰労の念を込めて終わりたいと思います。

長岡西病院を見学して

鷹巣町中央病院内 中島美枝子

看護婦として参加した私は、とても意気込んでいたように思います。看護はどのようにしてやられているのか？ビハラーの方々とどのように活動しているのか？どのような設備があるのか？テレビで放映されていたのは本当なのか？自分の目と耳で確かめたい。私達は何をしたら良いのかをつかみたい。等々

ところが実際に病院に入ってすぐ仏堂でのビハラー僧のお話で、こんなはずではなかった そんな思いが巡っているうちに、不思議な感じ、何となく気持ちが落ち着いてくる感じがしてきたのです。大変失礼かと思いましたが、お話しの中身は当たり前のごが多く、同伴した皆さんの熱気が妙にひしひしと伝わってきたのです。

「この仏堂の中にはたくさんの人の思いがある」「ここに居る、そこに意義がある」最初の意気込みはすっかりうすれ、肩の力が抜けた、ゆったりとし

た気持ちに変わっていたのです。

そのあとの、ソーシャルワーカーの先生のお話し、田宮先生のお話しの一つ一つがとても印象的でした。中でもカウンセリングするときの基本理念は、結論は患者さんが出せるようにと

未熟な私などはアドバイスをするといいながら、自分の価値観で結論を出して押しつけていたような気がして、一人赤面していました。

長岡から帰ってから、何かしなければといった衝動にかられ「末期医療のケア」「納棺夫日記」を読んだのですが、自分の未熟さに落ち込んだり、「現実に私の前には病気と戦っている患者さんがいる、目をそらすな」と自分を励ましたり とにかく「上杉鷹山」の改革の火種のように、ビハラーの火種を消さないように、火種を一人でも多くの人にわけていけるように、私の出来ることからはじめようと思っています。

御協力有難うございました

北海道南西沖地震義援チャリティバザー

去る八月八日、北海道南西沖地震被災地チャリティバザーを行ないました。場所は、いとく大館ショッピングセンター、いとく鷹巣店の二ヶ所同時開催。予想を上回る盛況で、総収益金は631,603円。秋田魁新報社鷹巣支局を通じて全額被災地へお送りしました。県北各地多くの皆さんからバザー提供品をご協力いただき、またいとく大館SC店、いとく鷹巣店には会場提供の便宜を、鷹巣町安全なせっけんをひろめる会さぶる学級の皆さんには当日の売り子として奮闘いただき本当に有難うございました。被災地の一日も早い復興を祈念します。

チャリティバザーに御協力いただいた皆さん

阿 仁 町 善 導 寺	大 館 市 伊 德 大 館 S C	鷹 巣 町 河 田 ま す み
阿 仁 町 善 勝 寺	大 館 市 伊 藤 碩 彦	鷹 巣 町 柳 谷 純 子
阿 仁 町 法 華 寺	大 館 市 薦 谷 達 徳	鷹 巣 町 森 昌 寺
阿 仁 町 専 念 寺	大 館 市 信 正 寺	鷹 巣 町 龍 泉 寺
阿 仁 町 福 巖 寺	大 館 市 長 興 寺	鷹 巣 町 佐 藤 美 由 起
阿 仁 町 耕 田 寺	大 館 市 温 泉 寺	鷹 巣 町 天 昌 寺
阿 仁 町 今 井 典 夫	大 館 市 本 宮 寺	田 代 町 小 林 泰 成
琴 丘 町 松 庵 寺	鷹 巣 町 浄 運 寺	田 代 町 洞 雲 寺
合 川 町 太 平 寺	鷹 巣 町 黒 滝 聖 子	田 代 町 観 音 寺
合 川 町 新 田 寺	鷹 巣 町 木 村 富 子	藤 里 町 袴 田 俊 英
合 川 町 正 法 院	鷹 巣 町 豊 沢 玲 子	藤 里 町 新 川 泰 道
上 小 阿 仁 村 福 昌 寺	鷹 巣 町 亀 山 敦 子	藤 里 町 宝 昌 寺
上 小 阿 仁 村 常 光 寺	鷹 巣 町 千 葉 文 吉	藤 里 町 月 宗 寺
森 吉 町 奥 山 亮 修	鷹 巣 町 今 野 順 之 助	藤 里 町 藤 田 呉 服 店
森 吉 町 浄 福 寺	鷹 巣 町 秩 父 孝 昌	能 代 市 長 慶 寺
森 吉 町 源 昌 寺	鷹 巣 町 今 林 恵 美 子	能 代 市 倫 勝 寺
森 吉 町 龍 淵 寺	鷹 巣 町 照 内 キ ク 工	能 代 市 海 蔵 寺
森 吉 町 福 寿 寺	鷹 巣 町 奈 良 康 一	能 代 市 柳 川 浩 二
大 館 市 越 姓 玄 悦	鷹 巣 町 岩 川 貢	能 代 市 玉 鳳 院
大 館 市 越 姓 智 子	鷹 巣 町 河 田 啓 子	八 龍 町 安 養 寺
大 館 市 宗 福 寺	鷹 巣 町 宝 勝 寺	峰 浜 村 正 伝 寺
大 館 市 遍 照 院	鷹 巣 町 永 安 寺	比 内 町 正 覚 寺
大 館 市 工 藤 幸 子	鷹 巣 町 星 新 平	比 内 町 小 林 匡 俊
大 館 市 源 守 院	鷹 巣 町 北 秋 中 央 病 院	比 内 町 全 應 寺
大 館 市 玉 林 寺	鷹 巣 町 伊 德 鷹 巣 店	比 内 町 養 牛 寺
大 館 市 実 相 寺	鷹 巣 町 野 呂 順 子	比 内 町 宝 田 寺

市川準監督「病院で死ぬということ」

ビハラー自主上映会を終えて

6月に鷹巣町で試写会を行なった映画「病院で死ぬということ」の自主上映会が無事終了しました。ビハラー主催ということで上映期間は秋のお彼岸中とし、

9月20日 阿仁町比立内耕田寺 21日 鷹阿仁広域交流センター
22日 二ツ井町福祉会館 24日 大館市中央公民館
25日 比内町扇田正覚寺 26日 能代市広域交流センター

以上、六会場にて計六回の上演でした。事前のPR については十分な準備も出来なかった反省もありました。しかしこれまでのセミナー中心から活動を小さな上映会でも県北各地のたくさんの人々と縁を結ぶことが出来たと感謝しています。ここに試写会の時にいただいた感想を少しだけご紹介します。

42歳 看護婦 女性

毎日の病院生活がそのまま映画化されて、現実的な感じで、末期になった患者の気持ちが痛いほど伝わってきました。

62歳 無職 女性

末期患者に対する病院の医師、看護婦さんの優しい言葉で接する場面がとても感動的でした。また患者も死を宣告された後は今までの家族と一緒に楽しく過ごしたことが、これからの子供達の成長を大変に心配されていることがわかりました。今日は本当にどうも有難うございました。

72歳 商業 男性

生きることも死ぬことも大変なこと。病人も家族もまた大変と思う。

42歳 女性

昨年の秋に弟をガンで亡くしました。今回の映画と同じ状態でしたが告知までは行きませんでした。生きる希望だけ言ってやりましたが、映画のようなことが少しでもわかっていたら別の方法を取っていたかも知れません。いずれやって来る死に、死によって生きて来た充実感を考えさせられ、家族の愛で生きて、生かされることを教わりました。

41歳 地方公務員 女性

仕事で疲れた頭には少々疲れを増すように感じた映画でした。今を大切に生きなければと思いました。映画の中の医師のように、患者を正面から受けとめ支えてくださる方が少なすぎると思います（知っている範囲では）。

62歳 女性

4月30日。弟60歳。地方公務員で定年退職したばかりでしたが直腸ガンで死亡しました。死の直前までトイレに立ったそうですが救急車の中で目をおとしたということで、私達は死に目にあえませんでした。今夜の映画を見て弟の気持ちをわかったような気がします。これからは一日一日を大事に、お互いに生かされているということを知り、大切に生きて行きたいと思いました。

57歳 事務員 女性

患者が病名を知るまでは苦しみ、悩んだが、真実を知らされて、痛みより家族との愛を生きる喜びとして最期まで生きた事に感動しました。死ぬことは怖くないと思ったことが強く生きることにつながったと思う。有難うございました。

35歳 看護婦 女性

「病院とは人生の中に突然現われた出来事である。病院は死ぬところではなく、生きるためのところである」という事を看護していくうえで常に念頭に入れ、その人のために何をしてあげることが出来るのかを考え、接していくことが出来たら、もう少しあたたかな看護が出来るのではないかと思った。映画はあまりに現実的で寂しく見えた。

21歳 看護婦 女性

いろいろな人間模様があり、現実感にあふれた映画だと思いました。実際にターミナルのステージにある患者が、同じような思いを持ち、亡くなっていくことを何度か体験していますが、ターミナルケアは本当に難しく、今後よく考えて行かなければならないと思いました。とてもいい映画だと思いました。

40歳 看護婦 女性

一つの流れの物語かと思っていましたが、ちょっとむずかしいかな、という気がしました。時間とともにわかってきたような、感銘するような気がします。ただあのように立派なドクターがいればどんなにか患者さんの心が休まるか。

32歳 看護婦 女性

映画前半の患者さん達の日常生活の様子においては私達の病院内でもよく見る光景で、不思議に違和感はありませんでした。やはり後半の患者さん達が亡くなるころのスクリーン上でターミナルについて深く考えさせられます。「家族への想い」と「死」この二つが私達を深い悲しみに導いているように思えてなりません。ターミナルにおいて大切なのは医療や看護のほか、人間とは何か、その人自身を考えることではないでしょうか。

関悦子さんを悼む

今年の三月、ビハーラセミナーの講師にお迎えした関悦子さんが10月11日に亡くなりました。

「あと半年」と乳ガンの告知を受けてから、二年四ヶ月の闘病生活。その間に『巣立ちなさいこの港から』を出版し、自己啓発の会「パンセの集い」や、ガンの告知を受けた人達の話し合いの場「かたくりの会」等々の活動の中心となって、残された時間を常に行動し続けた方でした。15日に行なわれた葬儀は、そのような悦子さんの人柄に魅せられた人々が、会場からあふれるほど会葬に訪れていました。

今でもセミナーの講師依頼に伺ったときのことが思い出されます。約一時間、熱い心がほとばしるような語り口で、私達を叱咤激励してくれました。

ガンを正面から受けとめる精神力、同様の状況にいる人を支える大きな愛、そして家族が真に自立した人間関係を家庭内に築く強さ。どれを取り上げても膨大なエネルギーを必要とすることばかりをやりとげた人でした。そのような悦子さんとお会いすることができたことを幸いと受けとめ、今はやすらかに休みくださいと願うばかりです。

ビハーラ代表 袴田俊英

INFORMATION

次回ビハーラセミナーにかえて

講演「病むこと、老いること—いのちを深く考える—」

講師 日野原重明先生 聖路加看護大学学長・聖路加国際病院院長

11月7日(日)午後1時半より 能代市文化会館大ホール(入場無料)

能代市文化学院主催のすばらしい企画です。斯界の第一人者を招いての講演会。ビハーラ学習のまたとない好機です。皆さんぜひご参加を。

あれやこれやでレポートの刊行が遅れてしまいました。申し訳ありません。さて、研修旅行、バザー、上映会等々を通じてこれまでの活動も違った意味でそれぞれの地域に広がり始めたかな、という気がしています。「ビハーラ」が特殊な活動ではなくて、ごく当たり前の活動として根付いていければと期待しています。

関悦子さんにビハーラが出会えたはもかけがえのない御縁でした。どうぞ安らかに。

[16] Vihāra Report No.7 1993 OCT

ビハーラレポート

第7号 1993年10月27日発行

ビハーラレポート発行所

ビハーラ代表 兼能代山本地区事務局

藤里町月宗寺内 袴田俊英 0185-79-2468

大館地区事務局 越姓玄悦 0186-49-6957

比内地区事務局 小林匡俊 0186-55-1144

森吉地区事務局 奥山亮修 0186-72-4143

阿仁地区事務局 今井典夫 0186-82-2418

鷹巣地区事務局 佐藤俊晃 0186-66-2032